

野村万作 新狂言の会

闇に浮かび上がる能舞台、水面に揺らめく二本のかがり火、野村万作・萬齋親子が舞い謡う！。

「出演」 野村万作 野村万之介 野村萬齋 石田幸雄 ほか



狂言 千鳥

狂言 小傘

当日は18時20分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次入場いたします。
チケットは「コラーレ」だけで発売いたします。

●この公演は黒部市の助成により低料金に設定しております。

●5歳未満のお子様の入場は、運賃のみです。

●公演中の一時保育（無料）を希望される方は事前にご連絡ください。

●雨天が予想される場合は雨合羽等をご用意ください。会場内傘のご使用はお断りいたします。

なお、雨天の場合は会場がカーターホールに変更になる場合がございます。予めご了承ください。

主催 財団法人黒部市国際文化センター

共催 北日本新聞社

協賛 チョーリップテレビ

後援 黒部市 黒部市教育委員会

2006年6月6日(火) 開場18:30 開演19:00

黒部市国際文化センター コラーレ (野外能舞台/400席限定) 一般 6,000円 高校生以下 2,000円

【チケット発売日】 コラーレ倶楽部先行発売日/3月12日(日) 9:30~ 一般前売発売日/3月19日(日) 9:30~

コラーレ

解説 石田幸雄

狂言 千鳥 ちどり

主人は太郎冠者を呼び出し、支払の滞っている酒屋から、さらに代金無して酒を取ってくるよう申し付けます。太郎冠者は酒屋が話好きであることにつけ込み、話をするうちに酒をまんまと持っていくと、伊勢の浜辺で伏せた千鳥の話や津島祭の山鉦を引く話をするのですが、酒を持っていく途中で酒屋に咎められます。そこで太郎冠者は……。
憎めない太郎冠者と人のいい酒屋のやりとりが生き生きと描かれ、中世の時代の大らかさを感じさせる作品です。

太郎冠者 野村萬斎

主 竹山悠樹
伯父 深田博治
後見 高野和憲

狂言 小傘 こがらかさ

田舎者が村に草堂を建立したのですが、堂守がないので街道に出て探していると、僧と新発意(しんぱち・出家して間もない修行中の僧)がやって来たのですぐに連れて帰ります。しかしこの二人、実は博奕で食いつめた主従でした。法事が始まると、僧は賭場で聞き覚えた傘の小歌をお経のように唱えて参詣人たちをごまかし、皆が法悦に浸っている内に新発意に施物を盗ませようとするのですが、なかなか上手いきません。そうしているうちに念仏は益々高揚していき……。
中世ののどかな様子がうかがい知れる、おかしみのある曲です。にわか坊主と新発意は、施物を盗む事ができるのでしょいか。

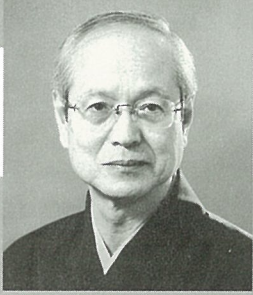
僧 野村万作

田舎者 野村万之介
新発意 高野和憲
参詣人 深田博治
竹山悠樹
月崎晴夫
石田幸雄
後見 野村良作

昨年は開館十周年を記念しての式典にて表彰状をいただき、誠に有難くご縁の深さを感じました。狂言の普及については、長い年月、力を注いで参りましたが、その面白さに対する認識も定着しております。殊にコラーレのように、毎年定期的に催してくださる企画の貴重さを思い、充実した公演になるよう心がけております。今回の「千鳥」「小傘」はともに面白く、初心者の方にも、また数を重ねて観て下さる方々にも喜んでいただける狂言かと存じております。

初夏の一夜、狂言の笑いの世界をお楽しみ下さい。

野村万作



野村万作 (狂言師)

一九三一年生。故六世野村万蔵の次男。祖父・故初世野村萬斎及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。三歳で初舞台。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞など、多くの受賞歴を持つ狂言界の至宝。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大、ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組み、代表作に「月に悪かれたビエロ」「子牛線の祀り」「秋江」「法螺侍」などがある。著書に「太郎冠者を生きる」(白水社)、ラックス、「狂言三人三様・野村万作の巻」(岩波書店)がある。



石田幸雄 (狂言師)

一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。「雙ノ会」主宰。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。大曲の「三番叟」「釣狐」「花子」をすでに初演。また新しい試みの舞台にも意欲的な発表が多い。普及公演での的確な解説にも定評がある。「万作の会」の海外公演にもたびたび参加。日本大学芸術学部、学習院大学非常勤講師。



野村萬斎 (狂言師)

一九六六年生。野村万作の長男。祖父・故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。三歳で初舞台。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言こざる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画「陰陽師」の主演、古典の技法を駆使した作品の演出、NHK「ほんごであそぼ」に出演するなど幅広く活躍。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞等を受賞。著書に「萬斎でござる」(朝日文庫)、「狂言三人三様・野村萬斎の巻」(岩波書店)等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。なお本年、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞を受賞した。



野村万之介 (狂言師)

一九三九年生。故六世野村万蔵の五男。父に師事。重要無形文化財総合指定者。五歳のときに「録叩」して初舞台。「万之介狂言の会」主宰。狂言界の代表的演者の一人。芸術選奨文部大臣新人賞受賞。亡父の洒脱さを継承した芸には定評がある。「万作の会」の重要メンバーとして、海外公演にもたびたび参加。また、東京大学、早稲田大学の狂言サークルを指導して久しい。